

平成29年度 自己評価報告書

評価対象期間 自：平成29年4月1日

至：平成30年3月31日

評価基準日 平成30年4月20日

学校法人栗岡学園
阪奈中央リハビリテーション専門学校

評価項目の達成および取組状況

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取り組み

回答責任者：理学療法学科 学科長、作業療法学科 学科長、事務次長

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	教育理念に基づき段階的に机上から臨床へのステップアップを図れている。また臨床現場に役立ち、人に信頼される理学療法士・作業療法士の養成を目標としている。	豊かな知識を持つことはもちろんではあるが、豊富な実習時間により対象者の立場に立つことができる人材を養成できている。今後は指定規則改正に向けての再編が必要である。実習の実施時期が年末までであるために国家試験対策が遅れ気味な印象がある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	平成 32 年度の指定規則改正に向けて、カリキュラムの再編が必要である。 理学療法学科では、平成 30 年度より評価実習を 3 週×2 回から、4 週半×1 回に変更し、2 年次年度末の予定に余裕を持たせる。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	理学療法士の職域の拡大による専門科目（がんリハ等）が不足しており、卒後教育に委ねている科目がある。作業療法士は供給不足気味であるが、免許を取得しておれば誰でも良いということではなく、高い能力のある人材が求められている。	近年の職域の拡大により現行のカリキュラムで触れていないことがある。卒業生が就職した施設からの求人リピート率は高い。作業療法士の精神障害領域への求人若干対応が不足している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	理学療法学科では、がんリハ、画像の診方、予防リハ等の時間数を確保していきたい。また、実習についても訪問通所リハの実習時間の確保に向けて調整していく。 作業療法学科では、地域・在宅リハにも対応できる作業療法士養成に向けて教育体制を充実させたい。
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	授業の大まかな進行は、基礎科目→専門基礎→専門科目→臨床実習という流れとなっている。2 年次のカリキュラムがやや多くなってはいるが、早期の段階から国家試験に向けた取り組みは十分行えている。	時間配分に関しては、専門科目にやや問題があったりする。また、指定規則の改正に向け、実習時間の追加と実習内容の改善が必要である。 特別試験を年度内にすべて終了することができたので、新年度への移行はスムーズにできた。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	指定規則の改正を控え、専門科目の単位数、講義時間数を見直したり、講義の中で実施している施設見学、プレ観察実習の見直しを図っていく。最終的には卒業要件を見直し、国家試験合格率向上を目指す。 外来講師の授業日程を可能な限り前倒しを行い、年度末の進級判定をよりスムーズにしたい。

<p>4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）</p>	<p>全ての科目について担当講師の責任で作成している。入学時に学生への配布、実習施設へは講義概要として配布している。 科目担当変更によるシラバスの変更についても新年度に向け作成している。</p>	<p>内容については問題ない。 講義終了後に講義日誌との比較が十分実施できていなかったり、講師により内容の詳細度に多少ばらつきがある。 内部教員担当で時間数の多い科目は、シラバス通りの進行にならない場合がある。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4 ←</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 →</p> <p>1 不</p> <p>1 十</p> <p>1 分</p>	<p>今後も内容にばらつきが出ないよう、特に非常勤講師の先生方にはご理解をいただき可能な限り詳細に作成いただくように努める。 また、科目の実施時期等を精査し、指定規則改正に向けて調整していく。</p>
<p>5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか</p>	<p>毎週実施している学科会議の中で検討している。また、指定規則改正に向けても協議している。</p>	<p>一つの科目の問題点を改善するためには学年、他科目等を合わせて検討の必要がある。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4 ←</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 →</p> <p>1 不</p> <p>1 十</p> <p>1 分</p>	<p>非常勤講師や臨床実習施設と活発な意見交換を行い、より充実したカリキュラムを編成していくため、学科責任者で改正に向け作業を開始している。</p>
<p>6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか</p>	<p>国家試験の出題範囲を考慮し、各科目担当者の裁量で決定しているが、専任教員については学科全員で決定している。 また出版社から届く献本については全員で回覧し、教材選定の参考にしている。</p>	<p>学生の現状レベルに合わせ、国家試験の出題基準に則したテキストの選択が必要な科目も存在する。</p>	<p>5 + 分</p> <p>5 ←</p> <p>4 ふ</p> <p>3 つ</p> <p>2 →</p> <p>1 不</p> <p>1 十</p> <p>1 分</p>	<p>複数の候補から、学生の現状を踏まえた使用テキストの見直しが必要である。 国家試験対策では学生負担にならぬように再考していく。</p>
<p>7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか</p>	<p>各科目の判定結果をもとに、学科会議にて教育的な効果を考慮し、適切に成績評価を行っている。 また、理学療法学科では、今年度より臨床実習の総括的評価を撤廃し、学内判定の割合を大きくした。</p>	<p>外来講師の終講試験の難易度や採点基準にばらつきが多少ある。 情意領域の評価については教員間の格差が生じないよう科目判定会議、進級判定会議を定期的に行い、厳正な評価に努めた。その結果、担当教育間格差が減少し、より学生の課題を全教員で共有できるようになった。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4 ←</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 →</p> <p>1 不</p> <p>1 十</p> <p>1 分</p>	<p>非常勤講師に適切な出題と採点をさらにお願いく必要がある。</p>
<p>8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか</p>	<p>外来講師については授業終了後にクラス担任との面談を通じて学生の状況を確認の上対応している。 また内部教員についてはグループでのディスカッション等を用いながら学生参加型の講義に重点を置いている。</p>	<p>外来講師については理解度が不足している場合がある。その場合は特別講義などを設けて補充をおこなっている。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4 ←</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 →</p> <p>1 不</p> <p>1 十</p> <p>1 分</p>	<p>外来講師は、学生の理解度を確認・考慮している度合いに若干の温度差があるので、是正していく必要がある。</p>

9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	1年次より補講制度、特別講義、グループ学習を適宜実施し、担当教員が学力不足を補うような取り組みを行っているが、一部取り組みが遅くなった。	各学年でグループ編成しそれぞれ担当教員を配置し、定期的に確認や指導を実施している。 1年生では、全体的に基礎学力の不足がみられた。 3年生の特別講義は充実していると思われる。	5 十 分	4 ←	3 つ	2 →	1 不 十 分	自分の担当以外の学生状況についても科目担当、担任等が随時全員と情報を共有する必要がある。また、補講の時間を確保していく。新年度の1年生では、基礎学力試験の結果を待たず、早期にグループ学習に取り組み、成績不良者の発生を抑えていく。
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	全教員で指導している。臨床でのマナー・身だしなみ等については実技場面で適宜実施している。	臨床で求められるマナーとそれ以前の社会人としてのマナーについても各教員が気付いた時に指導している。また、頭ごなしで叱るのではなく、「なぜそれが必要か？」を理解できるように丁寧に指導している。	5 十 分	5 ←	4 つ	3 →	2 不 十 分	今後も保護者の協力を仰ぎ、個々の学生に対して指導を徹底していく。
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	毎年行われる教育研究大会・研修会には学科から必ず1名は参加し、教育技術についての知見を得ており、学科内で伝達講習を行う。	各教員の授業は科目担当の裁量に委ねているところが大きい。 今年度は教員研修会に1名参加し、修了した。	5 十 分	5 ←	4 つ	3 →	2 不 十 分	内部教員に関してはFD(ファカルティ・ディベロップメント)を実施し、教育の質の向上を図りたい。また、教員研修会に積極的に参加し、教員の質の向上に努める。
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	科目ごとに授業評価を実施し、授業内容の改善に努めている。	評価結果に関しては、学内で常時閲覧できるが、各講師が確認し反映しているかどうかの詳細は把握できていない。	5 十 分	5 ←	4 つ	3 →	2 不 十 分	非常勤講師にはアンケートを開示できる旨のアナウンスを積極的に実施していく。

2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価					今後の向上・改善策
1. 教室の数や広さ、付帯設備は適切ですか	教室の数、付帯設備は十分であるが、一部少し狭い教室がある。構造上、外来講師の授業中では、学生の受講状況が確認できない事がある。	教室の数は十分であるが、HR教室で単位認定試験を行うには少し狭いため、別室で行う必要がある。視聴覚設備は充実しており、授業進行がスムーズになった。	5 十 分	5 ←	4 つ	3 →	2 不 十 分	各学科の授業予定を把握し、教室のレイアウトを工夫し、各クラスの教室確保に努める。デジタル機器等については、ニーズに合わせた機材の購入・修繕を必要に応じて行う。

<p>2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）</p>	<p>書籍や設備は教務室や四条畷看護専門学校の図書室に揃っている。メディカルオンラインの導入により、実習中の文献検索が非常に改善された。</p>	<p>毎月最新の雑誌が到着しており、全ての開架にて閲覧することが可能である。図書室利用には少し移動が必要となるため、学生には少し利用しづらい面がある。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 ← つ →</p> <p>1 不 + 分</p>	<p>メディカルオンラインの導入により、図書室の蔵書で不足している分を十分補えている。</p>
<p>3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか</p>	<p>学生定員に対し適切な広さの教室が確保できている。</p>	<p>講義棟では視聴覚教材の使用が容易になったが、一部の物理療法機器は旧校舎に設置しており、回数は少ないが校舎を移動しなければならない事がある。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 ← つ →</p> <p>1 不 + 分</p>	<p>指定規則改正に向け、新規購入の必要な機材が出てくる。</p>
<p>4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）</p>	<p>プロジェクターやマイク設備等、視聴覚機器や情報機器は利用しやすい環境にある。また、各教員にPCを配置し、LAN環境のWi-Fi化により印刷や情報共有が容易になった。</p>	<p>現状では充実しており、有効に活用できている。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 ← つ →</p> <p>1 不 + 分</p>	<p>必要であれば、時代のニーズに合致した最新の機器に更新することを検討していく。</p>
<p>5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）</p>	<p>女子寮は講義棟に併設しており、男子寮もバスで6～7分の場所にある。</p>	<p>女子寮には寮母が在住しており、セキュリティ面でも安心である。設備面でやや不自由で老朽化している箇所もある。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 ← つ →</p> <p>1 不 + 分</p>	<p>随時補修等の改善を実施していく。</p>
<p>6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）</p>	<p>実習棟に体育館があり、入学式・卒業式や1年次の保健体育の授業で使用しているだけでなく、関連の阪奈中央病院の患者でスポーツ選手も利用している。広い芝生広場がありが運動場は造成中である。</p>	<p>体育館や芝生広場は、学生や当法人の関係者はもちろん近隣住民の方々にも開放している。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 ← つ →</p> <p>1 不 + 分</p>	<p>今後もこの状況を維持、継続していきたい。</p>

3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1. クラス担任制をとり修学の問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	各クラス2名担任制を導入し、きめ細かい指導を心掛けている。また、保護者と文書や電話で連携をとっている。さらに、指導が必要な学生については、報告書の作成とともに学科会議にて全教員での対応検討を行っている。	各学年2名体制（担任・副担任）に加え、演習・実習等では全専任教員指導体制により、キメ細かく個々の学生に対応している。さらに適宜面談を実施し、学科全体で情報を共有して問題が拡大する前に対応している。	5 + 分 4 ← つ う 3 ふ う 2 → → → 1 不 十 分	今後も保護者を含めた3者面談を積極的に実施し、学校⇄学生⇄保護者の連携を強め、留年者、退学者を減少させるよう努力する。
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	臨床心理士がいるので、教員面談のなかで必要と思われる場合は利用を勧めている。	担任だけでは対応しかねる問題のある学生については、臨床心理士が適宜対応している。	5 + 分 4 ← つ う 3 ふ う 2 → → → 1 不 十 分	今まで以上に担任と臨床心理士の連携を深め、精神的な理由による退学者を出さないように努める。
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	学生ホール(大)、学生ホール(小)を2部屋、各所にソファが設置されており、休憩時には学生が有効利用している。	講義棟への移転により、学生用スペースがかなり充実した。	5 + 分 4 ← つ う 3 ふ う 2 → → → 1 不 十 分	現状を維持していく。
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	学生が食事をするのに十分なスペースが確保できている。売店に関しては、弁当の注文販売や、週に複数回のパン屋・ヤクルトの出張販売があり、自動販売機も十分設置されている。	講義棟への移転により、食事スペースが広がった。	5 + 分 4 ← つ う 3 ふ う 2 → → → 1 不 十 分	食事場所については十分である。売店については近所にスーパーやコンビニがあり、学内では十分とは言えないが、出張販売があるので不自由ではない。
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	現段階では学校独自の奨学金や特待生制度は行っていないが、学生支援機構の奨学金を案内している。 独自の支援制度としては、診療費補助制度や特別学費支援制度などがある。	学校独自の奨学金制度はないが、納付金自体を低く設定している。	5 + 分 4 ← つ う 3 ふ う 2 → → → 1 不 十 分	母子家庭が増加傾向にあることから、経済的理由により学業継続が難しくなった学生に対応できる制度は必要かもしれない。 場合により、実習病院等で奨学金制度を実施されている施設があるので、より積極的に告知していく。

6. その他 特になし			5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	
----------------	--	--	--	--

4 教育面などでの特筆すべき取り組み(自由記入)

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

- 今年度より、近鉄生駒駅、JR 忍ヶ丘駅、京阪寝屋川市駅よりスクールバスの運行を開始した。さらに、平成 30 年度より無料で利用できるよう改正するとともに、運行時間帯および運行回数を見直し、学生の通学の利便性をさらに高める。
- 理学療法学科 2 年次の評価演習ⅡA、ⅡB では、より臨床に即した評価プロセスを学内で実施したことで、評価実習本番での大きな問題はなかった。また、指導方法の再考により、教員・学生の負担が少なくなった。